

令和6年度 幼児教育研修（年齢別担任研修0歳児・第2回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

日時：令和6年9月25日（水）15:00～17:00

会場：ギャラクシティ

講師：彰栄保育福祉専門学校 専任講師 山梨 有子 氏



前回の研修の振り返り

★保育とは養護と教育の一体★

「保」 養（保）護 → 生命の保持

「育」 教 育 → 発達の援助

★環境を通して行う保育

環境 → ヒト（身近な人）
モノ（周囲の様々な物）
コト（事象など）



様々な物と出会い
直接的・具体的な
体験を通して行われる



★月齢（差）を考慮した環境設定のヒント

- ・粗大運動 微細運動 → 発達をイメージする
- ・次の興味は何かな？ → 興味、関心の一歩先をイメージする
- ・安心、安全、愛着の土台が作られる → 1年の暮らしを（先を見通す）イメージする

- ・発達（育ち）には、その時期の特徴があるが、あくまでも目安であり、育ちには道筋（順序性）がある
- ・探索活動 → その物のもつ性質を「確かめる」器官として機能する

・子どもの発達を理解するための3つの視点

- ①身体的な発達 → 身体感覚・運動・生活リズムなど
- ②社会的な発達 → 人との関わり・信頼感・自己発揮など
- ③精神的な発達 → 興味・関心・探索・諸感覚の豊かさなど



★0歳児の保育内容★

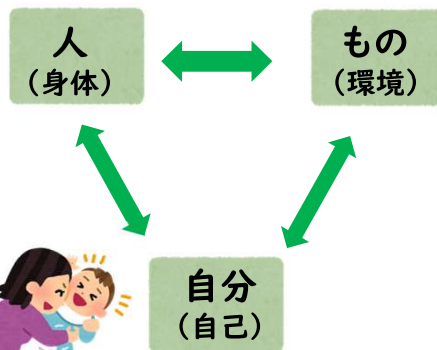
社会的発達に関する視点

人：身近な人と気持ちを通じ合う

- ・子どもの多様な感情を受け止め、温かく、応答的に関わる。
- ・楽しい、ゆったりとした雰囲気関わる。
- ゆっくり、優しく話しかける。

<子どもの期待に応える眼差し>

- ・応答する、言葉をかける、アイコンタクトスキンシップ、うたう、語りかける。
- ・誰かと一緒に、共に嬉しいと感じる心地良さ
- 嬉しいと感じる姿を受け止めることが人に興味をもつ土台となる。



精神的発達に関する視点

もの：身近なもの

関わり感性が育つ

- ・音質、形、色、大きさなど子どもの発達に応じた適切な玩具を選ぶ。
- ・子どもの表情やしぐさ、泣き、発声など感情の表出を受け止める。
- 楽しむことを通して表現が豊かに
- <どんな風にどんな物で環境を整える>
- 色、形、感触、大きさが違う物、動く、動かせる物、音が出る物、自然物、マネできるもの、五感を刺激するもの

身体的発達に関する視点

自分：健やかにのびのび育つ

- ・心身両面の快適さを感じ、満足感を得られるようにする。
- ・食事→食習慣の形成の第一歩
- <自己を知るための様々な体験>
- 手をつく、手を伸ばす、握る、つかむ、舐める、ハイハイ、くぐる、つかまり立ち等

子どもの興味、関心を知ることが大事

- ・子どもが何をしようとしているのかよく読み取っていく。
- ・次の遊びにつながるヒントはないか意図的に考えていく。
- ・子どもが育ちたい方向を支える

保育のねらいにつなげる





どのような環境で、どのようなことに興味をもっている？ 子どもの遊びの映像から考察しました

- ・室内で過ごす子どもたちの姿を映像で見えていく。
- ・自クラス、他クラス（1歳児室）で過ごす。
- ・園の環境を工夫して使っている。→廊下でハイハイ、ロッカーの中に鏡（中に入って自分の顔を見て遊ぶ）
- ・大人が用意した物で必ずしも遊ぶとは限らない。「今はそんな気分じゃないよ」という姿も0歳児にはよくある姿である。
- ・他クラスで、どんな遊びをしている？ ➡ままごと、風船、水槽の魚を見ている。



子どもが今①どのようなことに興味をもつのか②どのような思いでどのような遊びをするのか③次にどのような物を用意すると良いのか、担任は他クラスの環境を借りながら子どもの今を発見したい！

ままごと遊び

- ・クラスにはない玩具に興味をもち、1歳児もいる同じ場で遊ぶ。
- ・保育者の膝に座って遊ぶ子もいる。
- ・食べ物や皿にのせるなど、自分のしたい遊びを、じっくり遊んでいる。



風船をもっている男児

- ・風船が気に入っているようだ。手で感触を楽しんでいる。
➡にぎにぎ、持ち上げる、放しては捕る。
- ・他の子や周りの様子にも興味はあるようだ。じっと見ている様子がある。
➡1歳児の遊ぶ姿を見ている。目で追っている。



クラスでは子どもの様子から、ままごと遊び、風船遊び（紐をつけて天井から吊るす）ができる環境を作ることになった。

（受講生より）困っていることをみんなで共有しました

- ・子どもの入園に時差がある。信頼関係をつくるために、どのように環境をつくっていくと良いのか。



- ・入園の時差をポジティブに捉えていきましょう。
- ・安心できる大人との関わる時間を保障しましょう。
- ・子どもの様子に合わせた大人の動きがとても大切です。クラスの連携が重要です。

- ・食事と遊びの環境をどう作っているのか。区切っている？スペースを作っている？



- ・区切るのは目線を隠すことが目的にならないよう、「おなかすいたね」と子どもの気持ちに合わせていきましょう。大人の都合にならないことが大切です。

研修生の報告書より

他園の保育の様子から、環境を整えることや異年齢児との関わりをもつことで、子どもたちの遊びや気付きが広がっていくことが分かり、とても勉強になった。発達において個々に違いがあるため、今目の前の子どもたちと向き合う中で色々な素材の物を用意し、五感を働かせた遊びを自分自身が積極的に行っていこうと思った。



公園にお散歩に出かけた時には、落ち葉やどんぐり拾いをしたり、砂場で遊んだり、それぞれの感触を楽しんだ。保育参加だったので、保護者も一緒に行き、子どもが遊んでいる様子を見て「家ではどうしても避けてしまいがちだったが、子どもが楽しそうに砂遊びをしているのを見ると、今後は積極的に遊ぼうと思った」と話してくれた。子どもたちの楽しそうな姿と一緒に共有でき良かった。